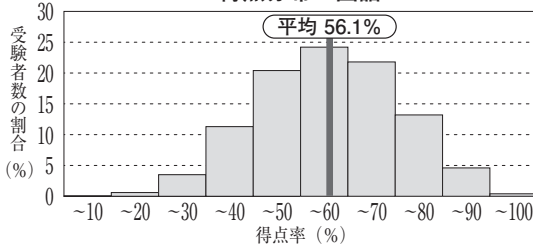


夏休みまでにセンターレベルをクリアできるように、計画的に勉強を進めていこう！

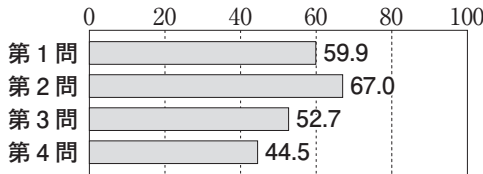
I. 全体講評

「第2回4月センター試験本番レベル模試」の国語の平均点は一一・二・一点（二〇〇点満点）であった。センター試験同日体験受験から順調に伸び、良い結果であった。これは、小説と古文が前回と比べて良かったことによるものだ。次回も更に成績を伸ばせるよう、勉強を続けてほしい。

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



分野ごとに見ると、現代文は評論に伸びが無かった。評論は論理的に書かれている文章なので、受験勉強をしていれば、確実に得点できる分野である。今回、問3・問4・問5(ii)と、出来が悪かった読解問題が多かったことからみても、まだ受験勉強としての現代文の取り組みが始まっていない諸君が多いことであろう。ぜひ、論理的な文章読解の仕方について確認し、問題演習を計画に組み入れるようにしよう。また、漢字力もまだまだのようだ。時間をかけて勉強をする必要はないが、入試頻出の漢字ドリルなどで、日々少しずつ覚えるようにしよう。

古典分野は覚えておけば得点できる部分が多い。今回、漢文の出来が悪かったが、漢文は覚えるべき量も少なく、句法と重要漢字を理解すれば、文意はとりやすいはずなのだが、現時点ではまだまだということであろう。今回得点出来なかった諸君は、句法や重要漢字について、どこかで一度、集中的に覚えてしまおう。後は、問題を解く中でそれを徹底的に確認していこう。

古文は、読解のための古典文法（特に助動詞の意味・接続、助詞、敬語など）や重要古語の意味については早急に身につけるようにしよう。

新学期になって、一ヶ月が経った。受験まであと一年…ではなく、あと、八か月あまりである。

あつという間に、夏になり、秋になり、受験期を迎える。国語の勉強を後回しにして、最後に焦ることにならないよう、遅くとも夏休みの終わりで、センターレベルをクリアできるように計画的に勉強を進めよう。

II 大問別分析

第1問 (評論)

三行選択肢の設問では、的確に正否を判断できる力を身につけよう。

第1問（評論）は、やや難解な内容の文章で、前回と同程度の約六割の得点率であった。現在のセンター試験に代わる新テストの傾向に即して、図表の読み取りも含んだ問題設定だったが、それに対する苦手意識はないようだ。

今回の結果では、問1の漢字問題が最低の正答率となっている。また、問4、問5の正答率は五割を大幅に割っており、注意を要する。

問1の(i)は、「移植」と同じ「植」を用いるものを選ぶ問題だが、正答率は三三・四％で、②の「増殖」を選んだ者のほうが多い結果になった。「植」の中心的な意味は「うえる」、「殖」の中心的な意味は「ふえる・ふやす」である。

問3は新テストでも導入される、選択肢が会話

方式の設問だが、正答率は五三・二%でまずまずの出来である。空欄補充の形式だが、それほど抵抗はなかったようだ。誤答⑤とした答案も多いが、筆者は最終的に人工物と自然とが結びつく「新しい人工都市」を望んでいる点をふまえる。

問4の正答率は、四二・二%で、選んだ人の多かった誤答④では、「」の結果も変化している」という因果関係に注意したい。

問5の正答率は、三八・七%と低調だった。長い三行選択肢の設問は選択肢をじっくり吟味し、正否を判断する習慣を身につけたい。最も多い誤答は②だが、「予測しえないものの集合体」とはどのようなものを検討してみるべきだった。

問6では、iiの正答率が五三・七%で、②④の誤答が多くみられる。雰囲気やイメージだけで直感的に正解を選ぶようなことは防ぐべきだ。文章全体の構成・展開の把握は読解の基本として不可欠だ。ぜひ身につけておきたい読解法である。

### 第2問 (小説)

どんなタイプの小説にも対応できる読解力を身に付けよう！

第2問はよい結果だった。大正時代の作品ではあったが、主人公の年齢が諸君と近かったためか、理解しやすかったようだ。ただし、センター試験の小説がいつもそうだとは限らない。主人公の年齢・時代がどうであれ、心情や行動などを押さえて読める読解力があれば得点できる。どんな小説問題も解ける読解力を身に付けよう。

問1の語彙問題は良くできていた。ただし、(イ)

「片意地そうな」は、「意地」から「意地悪」という語を連想したのか、②「性格の悪そうな」(ウ)「みえ」は「見える」からの連想からか③「はつきりとした態度」の誤答が多かった。まめに辞書を引くことで、語彙を増やしていこう。

問2は正答率が四三・二%と第2問の中で最も低く、誤答は①・②に集中した。ここは傍線直後の「フランチェスカ」というのがおかしくてならなかった、8〜10行目の「フランチェスカは、家の嫂さんとおなじだわくむつすり」と黙っているんだから「彼女はそう考えておかしくってならなかった」に気づければ、二種類の言葉しか言わないという共通点を面白く感じたことがわかり、正答③に行きつける。少なくともフランチェスカにしかふれていない①には行かないし、②も、無口ということはズレていて選べない。

問3は正答率が八割を超え、良くできていた。誤答は②に集まったが、解説のとおり「その友人を減らして」が不可。本文に書かれていない内容である。問4も誤答が多かった③は本文に書かれていないことを想像して選んでしまっている。勝手な想像で答えるのは小説でも厳禁である。

問5は正答③の「嫂が普通の人間であったことに落胆もした」がわかりにくかったかもしれない。しかし、誤答が集まった④や⑤は本文の内容から明らかに消去でき、結果として③が残る。消去法が有効な場合も多いことを覚えておこう。

問6の正答率は、②が四七・三%、④が五六・四%ともう一歩であった。間違えた人は解説を確認してもらいたい。ちなみに、この設問は、「適当

でないもの」を選ぶ問題である。概して「適当でないもの」を選ぶ場合、正答率が低くなることが多い。ミスした人は、これはうっかりミスではなく、重大なミスであると意識して同じ過ちを繰り返さないようにしよう。

### 第3問 (古文)

文脈をたどって、筆者の意見とその理由を丁寧に読みとろう！

歌作においての「心」と「言」について説いた文章からの出題である。全体の得点率は五二・七%でこの時期としては健闘したと言える。

問1の語釈問題は、重要古語やその派生語の意味を問う問題で、どれも五〜六割の正答率だった。(ア)は「掟(おき)つ」の名詞化したものが、「心を置く」と誤解した③への誤答が二割あった。(イ)の「やがて」は、現代語の意味のままの「いずれは」への誤答が約二割あった。(ウ)は「ことわる」に「難し」がついたもので、正答率は六割を超えた。文脈に合いそうだが語彙として不適当な③への誤答がやはり二割あった。

問2は一文を品詞分解して、いくつかの文法について説明した選択肢の中から不適当なものを選ぶ、最新のセンター試験のタイプの問題であった。正答は確定条件の接続助詞「ば」の選択肢で、五割弱の正答率であった。誤答が多かったのは係助詞「なむ」の⑥で、文末で結びの省略を起こしているのが係助詞に見えなかったようだ。

問3は、傍線部の前にある、千蔭の師である賀茂真淵の教えを読み取る問題で、これは六割を超

える正答率でまずまずの出来である。

問4は、「言」の変化に伴い、どのように歌を詠むべきかを読み取る問題。該当する本文の範囲も広く選択肢も長いが、四割を超える正答率で、この時期としては健闘したといえる。「心」を素直に詠めば「さとび言」でも優雅な歌になるとした④への誤答が多かった。本文では「言」をみやびにする努力が必要だと言っている。

問5は、歌を「古風」や「近体」と分けることに賛同していない選択肢②・④・⑤に解答は分散したが、理由を「心」を詠んでいないからとした⑤を選ばなくてはならない。正答率は六割で、誤答②・④の合計は二割であった。

問6は勝義の質問に対する千蔭の答えを読み取る、主旨に関わる問題である。時代の流れや弟子の考えによって師の教えと異なる歌が詠まれることがあるという③が正解だが、弟子の理解力の問題とする④・⑤への誤答が四割近くもあった。

#### 第4問 (漢文)

**傍線部の句法に注意して、筆者の考えを読みとろう!**

李伯時の山荘図を賞賛している文で、句法の問題も多かったが、全体の得点率は四四・五%。まだ漢文の学習まで手が回っていないようだ。

問1は語の意味の問題で、文脈における意味を問うている。特にXは注の「強記」が参考になり、結果五割の正答率であった。Yの「合」は「一体となっている」が正解だが、①「よく似通っている」への誤答がやや多かった。

問2のIは「そうではない」の内容を前段落から読み取って答える文脈把握の問題。問1と同様、注の「強記」がヒントとなる。IIは比況「若」に注意して「まるで〜ようだ」と解釈する問題で一割強の正答率にとどまった。「一人に出づる(二人から生まれた)」を、「仏が一体出てきた」とした③への誤答が三割を超えてしまった。

問3は、使役の句法の訓読の仕方と解釈を問う問題で、訓読の正答率は四割、解釈の正答率は三割を切った。訓読では、使役の対象を表す「をして」を読んでいない②・③への誤答も三割強と多く、解釈は使役が二つの動詞にかかっている①・②への誤答がやはり合計三割近くあった。まずは基本的な句法の形をしつかり覚えよう。

問4は、傍線部が無意識に生来の機能を果たす例であることを読み取る問題で、正答率五割を超えてよくできていた。漢文は意見を述べる際に例を挙げることが多い。それが何の例であるのか常に意識して読むようにするとよい。

問5の傍線部は、本質をとらえる力量と、表現力・技術の両方が必要であることを説いており、正答率六割を超えてよくできていた。一方のみに主眼を置いた③への誤答がやや目立った。

問6は、抑揚形「況んや(まして)〜は当然だ」に注目して②・③にしぼる。ここまでは七割の受験生ができていた。ただし「まして」の前後で、想像図と実景という基準で、程度の高いものと低いものを比べているということを、読み取らねばならなかった。正答率は五割であった。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### 【現代文】

◆基礎学習を大切にし、文脈に即して読みこむ訓練を重ねよう!

センター試験の現代文は、長文の問題文と選択肢とを読みこなす、高度な読解力が求められる。文脈に注意し、ポイントをおさえながら読む訓練が必要だ。こつこつと粘り強く、日々の勉強を続けよう。

また、その前提となる語彙力・知識をおろそかにしてはならない。漢字や語彙のドリルを次回までに一通り終わらせよう。

#### 【古典】

◆古語・文法・漢字・句法などの基本事項を、早い時期に身につけよう!

古典は何よりも知識が命である。センター試験の古典は読解力が重視されるが、単語や文法が未熟なままで、読解力を身につけることは不可能だ。知識を完成させたいので、どこまで読解演習を深められるかが勝負である。次回までに、古典文法はできれば全範囲、少なくとも助動詞までは終わらせて臨みたい。

#### 【過去問研究】

ぜひ今からスタートしよう。入試直前に慌てる間に合わない。計画を立てて進めていこう!